

# 専念寺通信

## 専念寺通信

二月号 (NO. 78)

今年も早一ヶ月がすぎ、2月の声を聞くころとなりました。予報通りの暖冬で、新潟では、1月中とうとう一度も雪がふりませんでした。東京も小春日和の日が続いています。「通信」2月号をお届けします。

### ☆ 節分

2月3日は節分です。節分はもともとは四季のうつりかわる時期、つまり、立春、立夏、立秋、立冬、の前日をさす言葉でした。春の節分は、このなかでも、立春の前日、冬の節から春の節へうつりかわる日をさす特別な言葉となったのです。節分には、夕方「鬼打ち豆」と呼ばれる炒った豆をまきます。「鬼はそと、福はうち」という声をかけながら、家の中に撒いていきます。外にむけても撒き、家内安全を祈願します。節分の日になると、神社仏閣で、お相撲さんや時の人が豆まきをする光景が放映されます。節分の豆を「年の数だけ食べる」と昔から言われていますが、いまはそれほど聞かれませんが、長い冬が終わり、暖かい春がめぐって来るのを喜びあうための祝いの儀式と解釈することもできます。

### ☆地球のために

地球の温暖化について、新聞、テレビ、雑誌などでとりあげられるようになってずいぶんたちます。最近では「100年後、気温が1.8度から4度上昇する」と報道されました。(朝日新聞2007年2月2日)原因としてはやはり「人間の出す二酸化炭素が大きな要因である」とのこと。気温の上昇にともなって海面は18センチから59センチ上昇するとのことです。

おそらく海面下に沈む国が多数出るとは想像にかたくありません。私達の国でも、海拔ゼロメートルの地域は海の下になるでしょう。新聞の同じ記事の中で、気温が「1度上昇」すると5000万人に水が供給できなくなり、「3度上昇」すると1億5000万人が洪水の被害にあうとあります。なぜ、このようなことになってしまったのでしょうか。いま、私たちにできることはないのでしょうか。工場や自動車の排気ガスについてはよくコメントされています。その通りだと思います。それに加えて、戦争時の戦闘機の出す排気ガスについてもぜひ忘れずにいたいものです。日常接することが少ないだけに(沖縄はじめ基地の近くに住んでいるかたは感じているでしょうが)規模を考えると乗用車やトラックの比ではありません。環境破壊の点からみても、戦争とそれにとまなうすべての行為は有害です。軍事訓練も含めて環境を破壊します。人間が生きていくうえでどうしても必要な、たとえば農作業、林業、漁業、建設業、などについてはある程度やむをえないと思うことができます。けれど戦争はどうでしょうか。「やむをえない」でしょうか。いま一度考えてみたいテーマです。

さて、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を吸収するために「樹木を植える」ことは無駄ではありません。欧米では、「樹木を植えること」をライフワークとして取り組んでいるボランティアの存在が知られています。自分の周りに少しでも緑



を増やしましょう。少しならできそうな気がします。街路樹の様子も観察しましょう。できることから始めましょう。平成19年2月2日 大黒